

航空統合気象観測システム施設 更新工事の概要

令和2年6月 工事説明会

中部航空地方気象台

航空統合気象観測システムとは

通称「AIMOS」 (Airport Integrated Meteorological Observation System)

航空機の離着陸の安全に資するため、空港及び周辺の気象観測、その気象状態の監視、観測データの迅速な提供等を行うシステムです。

平成28年度から全国の空港でAIMOSへの更新が始まり、中部国際空港では、令和2年度に更新する運びとなりました。これまでと同様に、機器と人による気象観測を行い、空港内の関係機関や航空会社にデータを提供します。



更新によるデータの信頼性向上

滑走路視距離観測装置の精度向上

- 50m～400mの範囲では
25m単位でデータ出力
(旧：50m単位)
 - 上限値が1800m→2000m
へ拡大
- ⇒更新により、ICAO基準との相違解消



温度計の二重化

- 点検時の欠測を回避

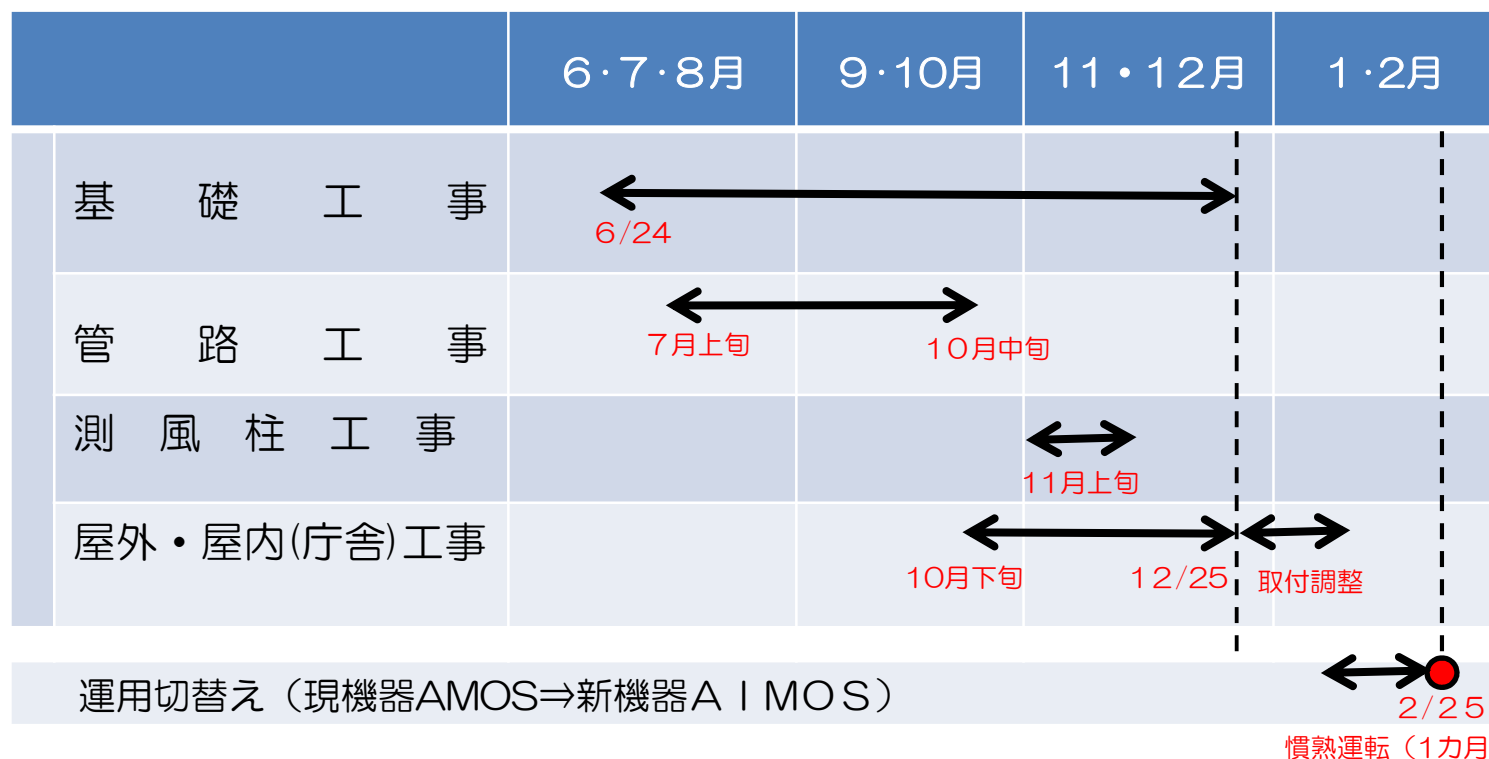
<温度計・湿度計・通風筒>



【温度計・湿度計通風筒】

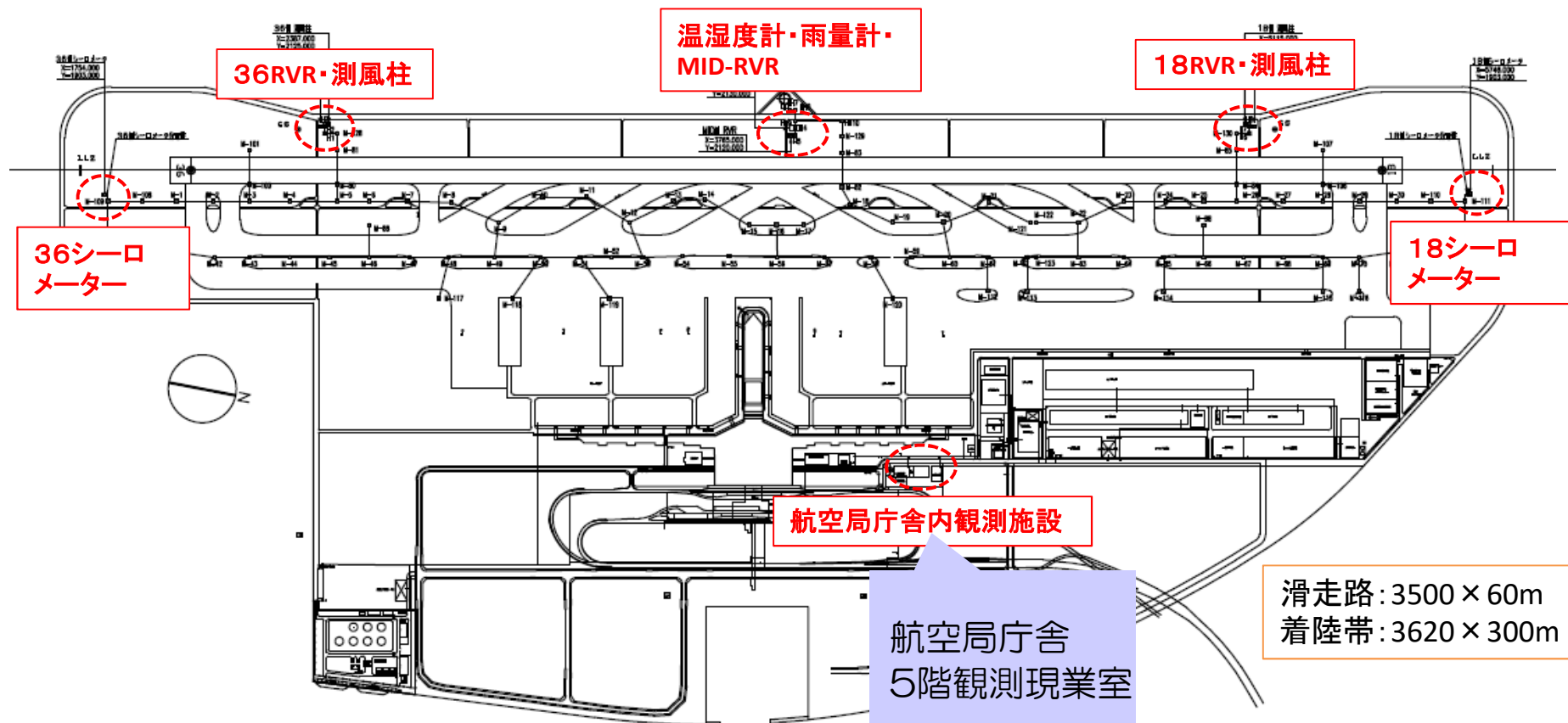
各工事

- ①基礎工事：新しい観測機器を設置する基礎の新設を行います。
- ②管路工事：新しい観測機器間などの管路掘削・新設を行います。
- ③測風柱工事：風向風速計を設置する測風柱の建柱を行います。
- ④屋外・庁舎内工事：通信・電源ケーブルの敷設接続等を行います。



工事場所

令和2年6月
工事説明会資料



機器の切り替え

AIMOSへの運用切替時に分岐データの配信が停止する時間帯があります。METARは通常通り発信します。

新旧機器の並行運用期間：1月後半～2月25日
新機器への運用切り替え：2月25日

運用切り替え後の配信データの内容や様式は、当面の間は変わりませんが、今後の変更については、別途調整させていただきます。

工事へのご理解とご協力をお願いいたします。